

令和4年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	栃木県	市町村類型	II-3		指定団体等の指定状況		区分		令和4年度(千円)		令和3年度(千円)		区分		令和4年度(千円・%)		令和3年度(千円・%)				
			財政健全化等	×	歳入総額	27,937,777	33,051,510	実質収支比率	13.9	14.6											
市町村名	下野市	地方交付税種地	1-3	財源超過	×	歳入歳出差引	2,585,206	2,780,871	経常収支比率	89.8	84.5	(※1)	(91.8)	(91.4)							
人口	令和2年国調(人)	59,507	産業構造(※5)	首都	○	翌年度に繰越すべき財源	424,986	469,945	標準財政規模	15,580,626	15,820,436	財政力指数	0.70	0.72							
	平成27年国調(人)	59,431		近畿	×	実質収支	2,160,220	2,310,926	公債費負担比率	14.5	15.2										
	増減率(%)	0.1		中部	×	単年度収支	-150,706	593,922	健全化判断比率												
住民基本台帳人口(※7)	うち日本人(人)	60,140	第1次	過疎	×	積立金	4,475	4,318	実質赤字比率	-	-	連続実質赤字比率	-	-							
	うち日本人(%)	59,258		低開発	×	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-										
	増減率(%)	0.1	第2次	山振	×	積立金取崩し額	25,000	7,702	実質赤字比率	-	-	実質公債費比率	2.9	2.1							
	うち日本人(人)	60,202	第3次	指数量選定	○	実質単年度収支	-171,231	590,538	将来負担比率	-	-										
	うち日本人(%)	59,439	標準財政収入額等		基準財政収入額	8,800,049	8,332,844	資金不足比率(※4)													
	増減率(%)	-0.1	標準財政需要額		基準財政需要額	12,724,536	12,207,364														
面積(km ²)	74.59	標準税収入額等		標準税収入額等	11,289,673	10,678,758															
人口密度(人/km ²)	798	経常経費充当一般財源等		経常経費充当一般財源等	14,527,647	13,966,352															
世帯数(世帯)	23,497	歳入一般財源等		歳入一般財源等	21,623,474	20,405,070															
職員の状況(※8)																					
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	26,891,786	28,896,399	うち公的資金	12,886,501	13,576,228							
	市区町村長	1	9,400		一般職員	361	1,091,303	3,023	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	16,867,492	18,454,254										
	副市区町村長	1	7,400		うち消防職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	9,909	13,219										
	教育長	1	6,600		うち技能労務職員	12	34,644	2,887	収益事業収入	-	-										
	議会議長	1	4,700		教育公務員	7	26,754	3,822	土地開発基金現在高	685,665	684,291										
	議会副議長	1	3,800		臨時職員	-	-	-	財政調整基金	2,209,389	2,229,914										
	議会議員	16	3,500		合計	368	1,118,057	3,038	積立金現在高	1,848,049	2,609,809										
					ラスバイレ指数				98.7	減債基金	1,848,049	2,609,809	その他特定目的基金	6,192,635	5,708,796						
	一般会計等の一覧																				
	項番	会計名	事業会計の一覧		項番	会計名	公営企業(法適)の一覧	項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧	項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧	項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧	項番	団体名	(※3)		
(1)	一般会計	(2)	国民健康保険特別会計	(5)	水道事業会計	(7)	小山栃木都市計画事業石橋駅周辺土地区画整理事業特別会計	(9)	小山広域保健衛生組合	(15)	(公財)下野市農業公社										
		(3)	介護保険特別会計	(6)	下水道事業会計	(8)	小山栃木都市計画事業仁良川地区土地区画整理事業特別会計	(10)	石橋地区消防組合	(16)	(一財)グリの里いしばし										
		(4)	後期高齢者医療特別会計					(11)	栃木県市町村総合事務組合一般会計	(17)	(株)道の駅しもつけ										
								(12)	栃木県市町村総合事務組合特別会計												
								(13)	栃木県後期高齢者医療広域連合一般会計												
								(14)	栃木県後期高齢者医療広域連合特別会計												

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※8: 職員の状況については、令和4年度地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)					地方税の状況(単位:千円・%)					歳出の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等		
地方税	10,254,428	33.6	9,749,569	61.6	普通税	9,749,569	95.1	213,812	議会議費	184,571	0.7	-	184,499		
地方譲与税	245,266	0.8	245,266	1.5	法定普通税	9,749,569	95.1	213,812	総務費	3,287,087	11.8	19,149	2,930,659		
利子割交付金	2,903	0.0	2,903	0.0	市町村民税	5,004,097	48.8	213,812	民生費	9,486,130	34.0	228,377	4,705,035		
配当割交付金	56,172	0.2	56,172	0.4	個人均等割	105,156	1.0	-	衛生費	2,213,658	7.9	17,450	1,891,954		
株式等譲渡所得割交付金	41,762	0.1	41,762	0.3	所得割	4,069,659	39.7	-	労働費	1,295	0.0	-	1,295		
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	189,451	1.8	31,565	農林水産業費	810,576	2.9	301,406	480,732		
地方消費税交付金	1,491,340	4.9	1,491,340	9.4	法人税割	639,831	6.2	182,247	商工費	1,067,316	3.8	155,171	414,503		
ゴルフ場利用税交付金	565	0.0	565	0.0	固定資産税	4,206,876	41.0	-	土木費	2,855,129	10.2	1,119,593	1,829,975		
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	4,200,559	41.0	-	消防費	1,075,873	3.9	10,691	1,065,691		
自動車取得税交付金	367	0.0	367	0.0	軽自動車税	158,573	1.5	-	教育費	3,792,971	13.6	1,206,999	2,399,820		
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	380,023	3.7	-	災害復旧費	-	-	-	-		
自動車税環境性能割交付金	25,286	0.1	25,286	0.2	鉦産税	-	-	-	公債費	3,163,171	11.3	-	3,134,105		
法人事業税交付金	116,989	0.4	116,989	0.7	特別土地保有税	-	-	-	諸支出金	-	-	-	-		
地方特例交付金等	70,366	0.2	70,366	0.4	法定外普通税	-	-	-	前年度繰上充用金	-	-	-	-		
個人住民税減収補填特例交付金	68,305	0.2	68,305	0.4	目的税	504,859	4.9	-	歳出合計	27,937,777	100.0	3,058,836	19,038,268		
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	2,061	0.0	2,061	0.0	法定目的税	504,859	4.9	-	性質別歳出の状況(単位:千円・%)						
地方交付税	4,507,684	14.8	3,934,242	24.9	入湯税	-	-	-	区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率	
普通交付税	3,934,242	12.9	3,934,242	24.9	事業所税	-	-	-	義務的経費計	12,649,912	45.3	8,245,884	8,145,075	50.4	
特別交付税	573,224	1.9	-	-	都市計画税	504,859	4.9	-	人件費	3,626,898	13.0	3,299,380	3,284,647	20.3	
震災復興特別交付税	218	0.0	-	-	水利地益税等	-	-	-	うち職員給	2,066,635	7.4	1,899,572	-	-	
(一般財源計)	16,813,128	55.1	15,734,827	99.4	法定外目的税	-	-	-	扶助費	5,859,843	21.0	1,812,399	1,726,323	10.7	
交通安全対策特別交付金	6,813	0.0	6,813	0.0	旧法による税	-	-	-	公債費	3,163,171	11.3	3,134,105	3,134,105	19.4	
分担金・負担金	101,558	0.3	-	-	合計	10,254,428	100.0	213,812	元利償還金	3,163,171	11.3	3,134,105	3,134,105	19.4	
使用料	227,614	0.7	39,413	0.2	徴収率	99.3	98.0	99.5	うち元金	3,107,413	11.1	3,078,347	3,078,347	19.0	
手数料	31,894	0.1	-	-	(%)	99.3	98.5	99.5	うち利子	55,758	0.2	55,758	55,758	0.3	
国庫支出金	5,089,680	16.7	-	-	年	99.3	97.3	99.3	一時借入金利子	-	-	-	-	-	
国有提供交付金(特別区財調交付金)	39,090	0.1	39,090	0.2	区分	令和4年度	令和3年度		その他の経費	12,229,029	43.8	10,246,944	6,382,572	39.5	
都道府県支出金	1,775,238	5.8	-	-	合計	99.3	98.0	99.5	物件費	3,977,507	14.2	3,288,845	2,988,001	18.5	
財産収入	34,531	0.1	3,892	0.0	市町村民税	99.3	98.5	99.5	維持補修費	175,491	0.6	161,188	161,188	1.0	
寄附金	18,581	0.1	-	-	市町村民税	99.3	98.5	99.5	補助費等	4,161,829	14.9	3,767,426	1,832,943	11.3	
繰入金	1,883,067	6.2	-	-	純固定資産税	99.3	97.3	99.3	うち一部事務組合負担金	1,546,608	5.5	1,546,608	1,305,896	8.1	
繰越金	2,780,871	9.1	-	-	公営事業等への繰出	2,889,739		213,313	繰出金	1,969,443	7.0	1,655,043	1,390,660	8.6	
諸収入	618,118	2.0	93	0.0	国民健康保険事業会計の状況				積立金	1,426,189	5.1	1,364,662	-	-	
地方債	1,102,800	3.6	-	-	合計	2,889,739		213,313	投資・出資金・貸付金	518,570	1.9	9,780	9,780	0.1	
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-	下水道	901,276		201,313	前年度繰上充用金	-	-	-	-	-	
うち臨時財政対策債	350,000	1.1	-	-	宅地造成	241,183		7,003	投資的経費計	3,058,836	10.9	545,440	-	-	
歳入合計	30,522,983	100.0	15,824,128	100.0	上水道	19,020		11,198	うち人件費	94,001	0.3	94,001	-	-	
					工業用水道	-		-	普通建設事業費	3,058,836	10.9	545,440	-	-	
					国民健康保険	383,835		-	うち補助	1,738,382	6.2	66,691	-	-	
					その他	1,344,425		318	うち単独	1,227,091	4.4	447,586	-	-	
									災害復旧事業費	-	-	-	-	-	
									失業対策事業費	-	-	-	-	-	
									歳出合計	27,937,777	100.0	19,038,268	-	-	

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和4年度 栃木県下野市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

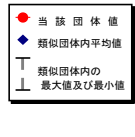
会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	30,523	27,938	2,585	2,160	1,883	26,892	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

令和4年度

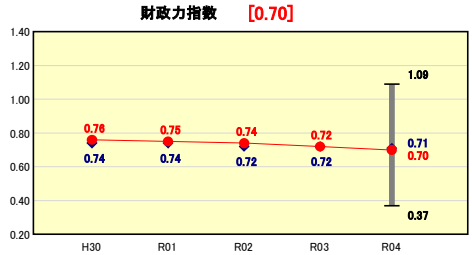
栃木県下野市

人口	80,140人 (R5.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	59,258人 (R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	74.59km ²	実質公債費比率	2.9%
歳入総額	30,522,983千円	将来負担比率	-%
歳出総額	27,937,777千円	市町村類型	H30 II-3 R01 II-3 R02 II-3
実質収支	2,160,220千円	(年度毎)	R03 II-3 R04 II-3
標準財政規模	15,580,626千円		
地方債現在高	26,891,786千円		



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレス指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

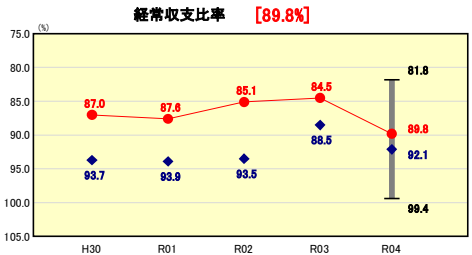
財政力



財政力指数の分析欄

財政力指数は、前年と同程度の水準となり、県、類似団体平均値と同程度の水準となっている。しかしながら年々指数が下降していることに加え、今後の社会経済状況が不透明なうえ、産業団地整備やスマートIC整備などの大型事業が施工中であることから、普通建設事業の峻別、起債事業の抑制、人件費の削減や市税の徴収強化による歳入の確保を図り、財政基盤の強化に努める。

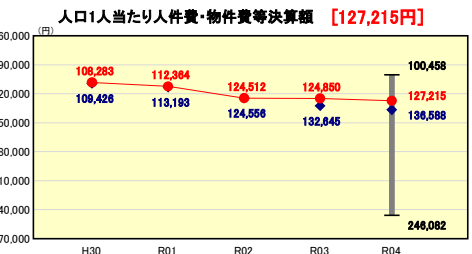
財政構造の弾力性



経常収支比率の分析欄

令和4年度においては、分子となる歳入(経常一般財源)が物件費、及び扶助費が増となり、分母となる歳入(経常一般財源)が、地方税が増となる一方、臨時財政特例債が大幅減となっていることから、前年度比5.3%の増加となった。
 今後、各施設の維持管理等コストの増、地方債の償還金の増などにより、経常収支比率が上昇することが想定されるため、引き続き行政改革大綱・実施計画等の実行による経常経費の縮減、及び安定した自主財源の確保を図り、弾力性のある財政構造の維持に努める。

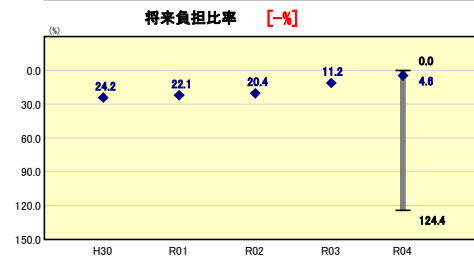
人件費・物件費等の状況



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

定員適正化計画の推進に伴う人件費の削減及び事務経費の縮減、指定管理者制度導入による物件費の削減を実施したことにより全国、県平均を下回っている。しかし、会計年度任用職員制度の導入等により人件費が増加しており、今後も引き続き徹底した人件費及び物件費の削減に努め行政コストの縮減を図る。

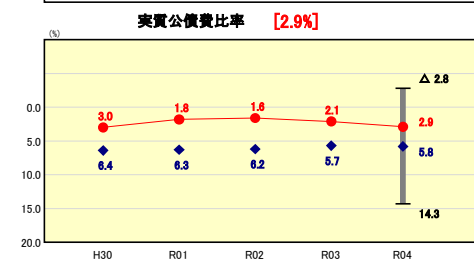
将来負担の状況



将来負担比率の分析欄

平成19~21年度(公的資金)、平成24~29年度(繰越債)に繰上償還を実施し利率の高い地方債残高の縮減に努めたこと、及び財政調整基金などへの積立てにより充分な基金を確保できていることにより、全国、県平均を大幅に下回り、良好な数値となっている。
 今後も積極的な行政改革に取り組み財政の健全化に努める。

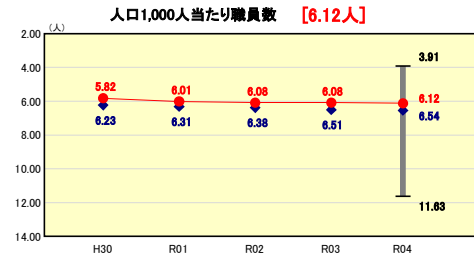
公債費負担の状況



実質公債費比率の分析欄

これまでの繰上償還実施など地方債残高の縮減に努めたことにより、全国、県平均を下回っている。
 しかし、これまで積極的に活用してきた合併特例事業債の償還がピークを迎えていることに加え、現在も地方債を活用し産業団地整備、スマートIC整備などの大型事業を施工中であり、今後も公債費の高止まりが予想されることから事業の峻別を行い実質公債費比率の抑制に努める。

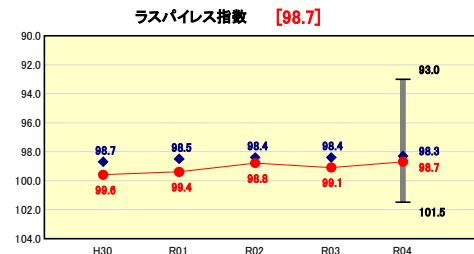
定員管理の状況



人口1,000人当たり職員数の分析欄

定員適正化計画に基づく職員数削減により、人口千人当たりの職員数は、全国、県平均を下回っている。
 今後も簡素で効率的、効果的な行政組織体制づくりを行うとともに、適正な定員管理に努める。

給与水準(国との比較)



ラスパイレス指数の分析欄

令和2年度・3年度においては、高卒35年以上について階層の中でも更に高齢化したことによる変動、その他各階層での職員構成の変動の影響により全国市平均を上回る結果となったものの、令和4年度では98.7%となり、全国市平均値と同じ数値となった。
 今後もラスパイレス指数の動向を注視しながら、国家公務員給与の措置、総合的見直し、職員階層変動、採用退職による影響を注視し、給与の適正化に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

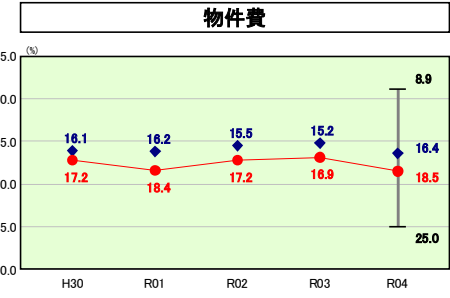
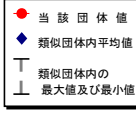
令和4年度

栃木県下野市

経常収支比率の分析

人口	60,140	人(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	59,258	人(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	74.59	km ²	実質公債費比率	2.9	%
歳入総額	30,522,983	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	27,937,777	千円	市町村類型	H30 II-3 R01 II-3 R02 II-3	
実質収支	2,160,220	千円	(年度毎)	R03 II-3 R04 II-3	
標準財政規模	15,580,626	千円			
地方債現在高	26,891,786	千円			

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

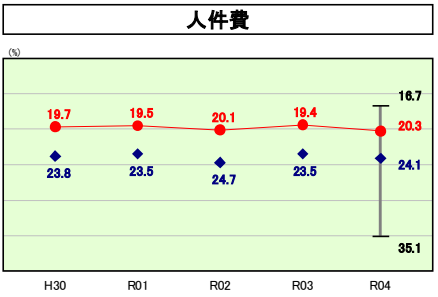


類似団体内順位 80/108 **全国平均** 14.9 **栃木県平均** 17.8

物件費の分析欄

物件費に係る経常収支比率は、全国、県平均を上回っている。指定管理者制度の導入や公園施設管理業務、一般廃棄物収集業務などの民間委託の推進を積極的に行ってきたが、社会資本整備に伴う維持管理費などが増加したことが主な要因となっている。

今後も、物価高騰等の影響による維持管理費の増などで物件費は増加することが想定されるが、公共施設等の適正な維持管理を図るとともに、委託内容や委託方法の見直しを行いコスト削減に努める。

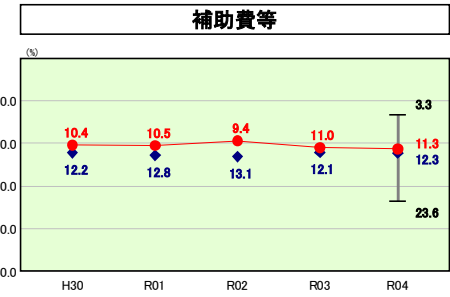


類似団体内順位 14/108 **全国平均** 25.9 **栃木県平均** 25.1

人件費の分析欄

人件費に係る経常収支比率は、ごみ処理業務や消防業務について、一部事務組合で行っていることから全国、県平均を下回っている。

今後も定員適正化計画による定員管理や指定管理者制度導入推進による人件費全体の抑制に努める。

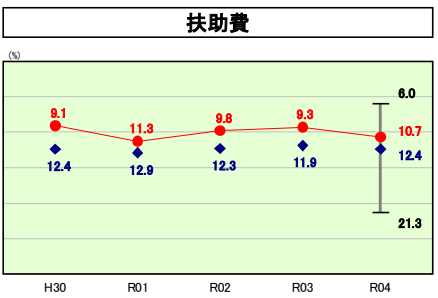


類似団体内順位 44/108 **全国平均** 10.5 **栃木県平均** 10.3

補助費等の分析欄

補助費等に係る経常収支比率は、全国、県平均を上回っている。

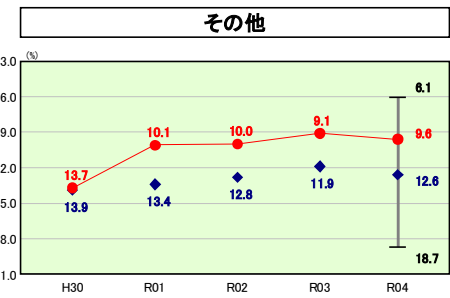
ごみ処理業務や消防業務を一部事務組合で行っていることに伴う負担金(経常的経費分)に影響されるところが大きいが、その他の補助費等についても補助金等の見直しに係る基本方針に基づき、経費の削減に努め、今後も更なる改善を図る。



類似団体内順位 30/108 **全国平均** 12.5 **栃木県平均** 11.7

扶助費の分析欄

扶助費に係る経常収支比率は、全国、県平均を下回っているが、子ども子育て支援に係る給付や医療費、生活保護費などの増加により上昇傾向にある。今後も障害福祉サービスの介護給付費等の増が見込まれるため、資格審査の適正化を進め上昇傾向に歯止めをかけるよう努める。

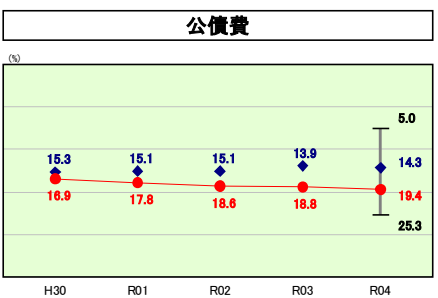


類似団体内順位 10/108 **全国平均** 12.4 **栃木県平均** 11.5

その他の分析欄

その他に係る経常収支比率については、全国、県平均を下回っている。これは令和元年度から公共下水道、農業集落排水特別会計が公営企業へ移行したことにより、大半を占めていた特別会計への繰出金が減少したからである。

しかし、未だその他に係る経常収支比率の大半を特別会計への繰出金が占めていることから、各特別会計の財政健全化に努め介護保険特別会計などへの繰出金の抑制を図る。

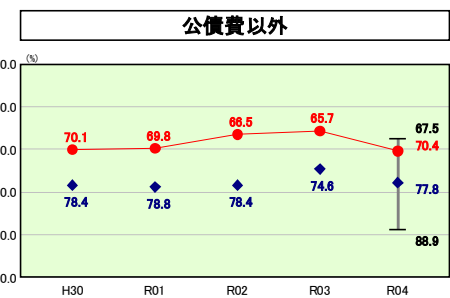


類似団体内順位 99/108 **全国平均** 16.0 **栃木県平均** 14.3

公債費の分析欄

公債費に係る経常収支比率は、全国、県平均を上回っている。これは義務教育施設の耐震補強や大規模改修事業、庁舎関連事業などで起債した合併特別事業債に係る償還がピークを迎えているからである。

スマートIC整備など地方債を活用した大型事業が施工中であることから、今後も数値が上昇することが想定されるため事業の峻別を行いながら財政の健全化に努める。



類似団体内順位 5/108 **全国平均** 76.2 **栃木県平均** 76.4

公債費以外の分析欄

公債費以外に係る経常収支比率は全国、県平均を下回っている。これは、人件費や扶助費の義務的経費が低かったことによる。

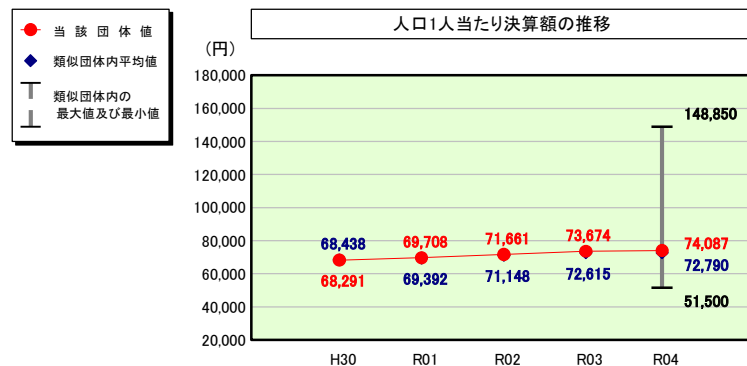
今後も義務的経費の上昇を抑えるとともに行政コストの縮減に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

栃木県下野市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

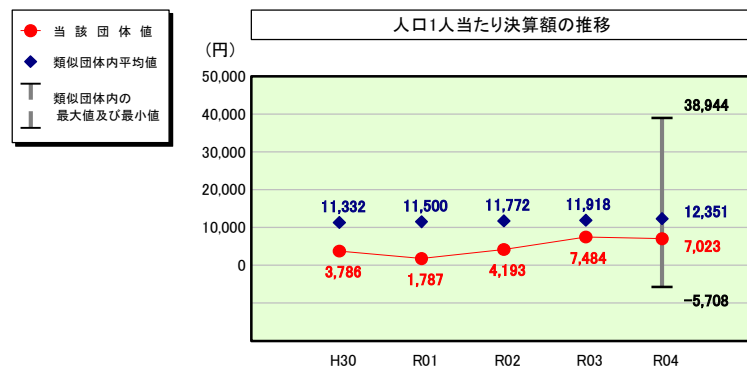
人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	3,626,898	60,308	65,316	▲ 7.7
一部事務組合負担金(補助費等)	710,066	11,807	6,075	94.4
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	71,762	1,193	1,232	▲ 3.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	18	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	176,097	2,928	2,791	4.9
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	94,001	1,563	1,364	14.6
▲退職金	▲ 223,206	▲ 3,711	▲ 4,006	▲ 7.4
合計	4,455,618	74,087	72,790	1.8

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	6.12	6.54	▲ 0.42
ラスバイレス指数	98.7	98.3	0.4

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

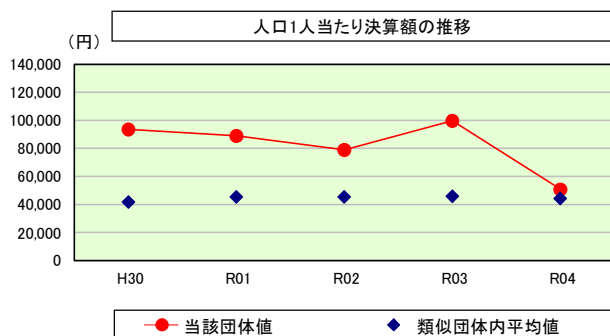


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	3,163,171	52,597	35,011	50.2
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	4	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	271,256	4,510	8,351	▲ 46.0
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	171,339	2,849	1,645	73.2
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	1,591	26	1,050	▲ 97.5
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利息は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 266,889	▲ 4,438	▲ 5,851	▲ 24.1
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 2,918,095	▲ 48,522	▲ 27,858	74.2
合計	422,373	7,023	12,351	▲ 43.1

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

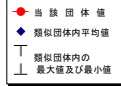
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H30	5,633,636	93,674	37.6	41,934	▲ 12.3	49.9
うち単独分	3,216,229	53,478	46.3	23,352	▲ 9.7	56.0
R01	5,360,078	88,958	▲ 5.0	45,588	8.7	▲ 13.7
うち単独分	4,719,023	78,319	46.5	24,150	3.4	43.1
R02	4,755,073	79,037	▲ 11.2	45,483	▲ 0.2	▲ 11.0
うち単独分	3,416,486	56,787	▲ 27.5	24,241	0.4	▲ 27.9
R03	6,008,614	99,808	26.3	45,945	1.0	25.3
うち単独分	3,186,896	52,937	▲ 6.8	25,180	3.9	▲ 10.7
R04	3,058,836	50,862	▲ 49.0	44,475	▲ 3.2	▲ 45.8
うち単独分	1,227,091	20,404	▲ 61.5	24,780	▲ 1.6	▲ 59.9
過去5年間平均	4,963,247	82,468	▲ 0.3	44,685	▲ 1.2	0.9
うち単独分	3,153,145	52,385	▲ 0.6	24,341	▲ 0.7	0.1

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

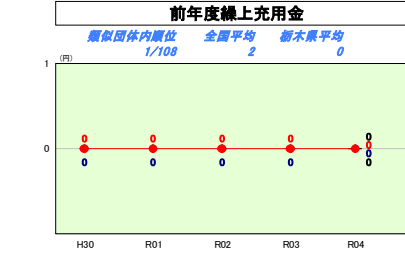
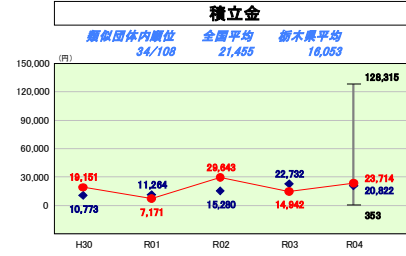
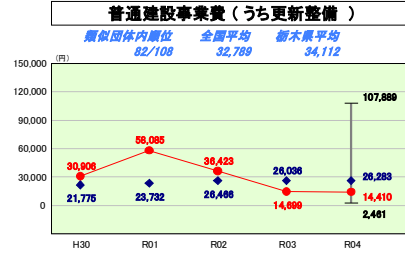
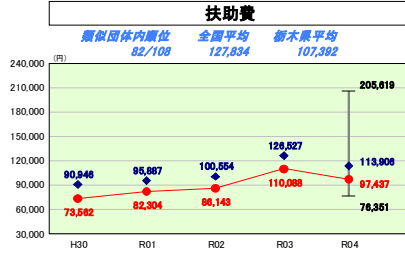
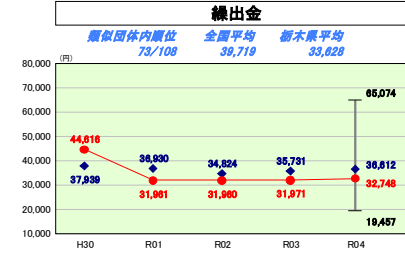
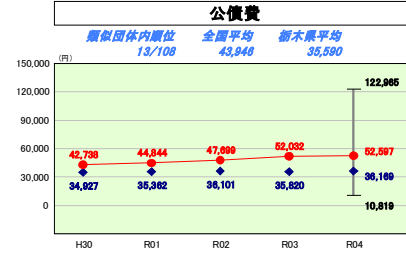
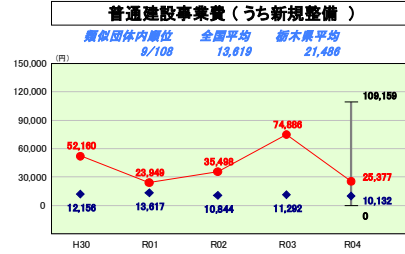
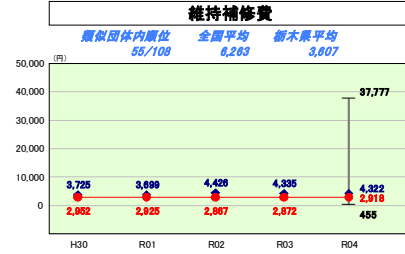
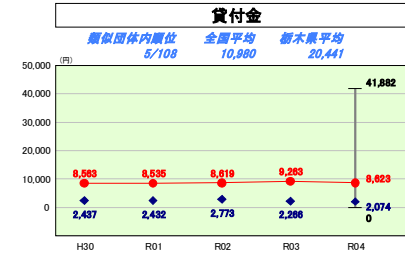
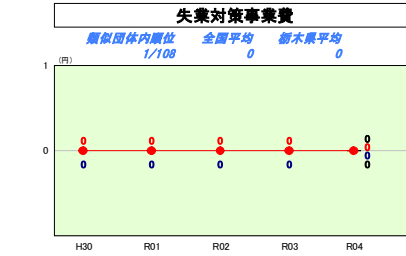
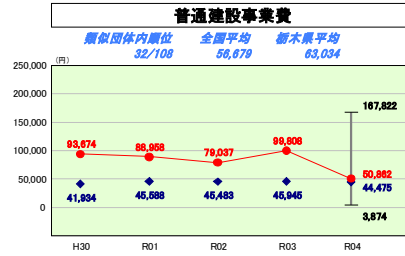
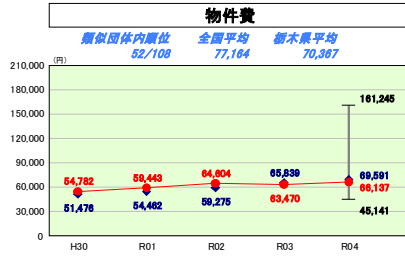
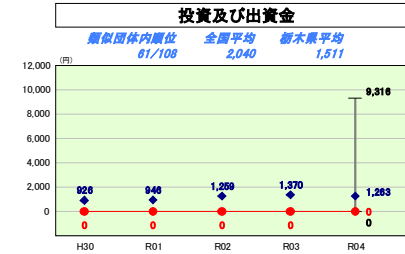
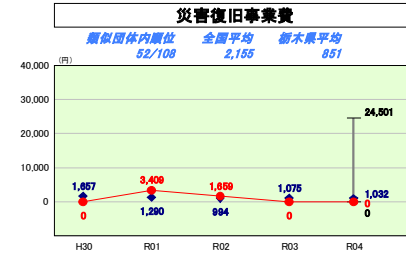
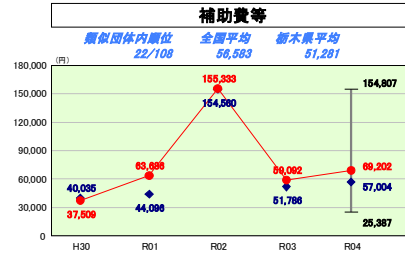
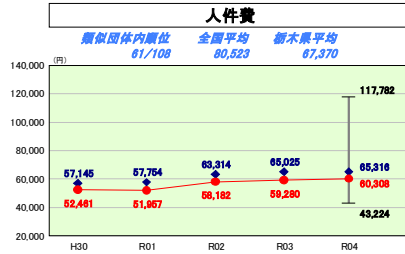
令和4年度

栃木県下野市

人口	80,140 人(05.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	59,258 人(05.1.1現在)	通算実質赤字比率	- %
面積	74.59 km ²	実質公債費比率	2.9 %
歳入総額	30,522,983 千円	実質負担比率	- %
歳出総額	27,937,777 千円	市町村類型	H30 II-3 R01 II-3 R02 II-3
実質収支	2,180,220 千円	(年度毎)	R03 II-3 R04 II-3
標準財政規模	15,580,626 千円		
地方債現在高	26,891,786 千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析圖

主な性質別歳出を見ると人件費は、定員適正化計画による定員管理や指定管理者制度導入推進により人件費全体の抑制に努めた結果、全国、県平均を下回っている。物件費、維持補修費、扶助費についても、全国、県平均を下回っており適正な水準にあると言える。補助費等については、令和元年度から下水道事業が公営企業へ移行したことによる負担金増が影響し全国、県平均を上回っている状況となっている。普通建設事業費は、更新整備費が全国、県平均を下回っているが、新規整備による普通建設事業費は、大幅に上回っている。主な要因として令和4年度においては、石橋複合施設整備事業があげられる。公債費は、全国、県平均を上回っている。これは義務教育施設の耐震補強や大規模改修事業、庁舎関連事業などで起債した合併特別事業債や臨時財政対策債に係る償還がピークを迎えているためである。繰出金は、令和元年度から公共下水道、農業集落排水特別会計が公営企業へ移行したことにより繰出金が大きく減少したことが影響し全国、県平均を下回っている。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和4年度

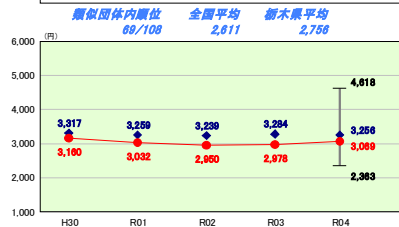
栃木県下野市

人口	80,140人(05.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	59,258人(05.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
職員	74,59人	実質公債費比率	2.9%
歳入総額	30,522,983千円	将来負担比率	-%
歳出総額	27,937,777千円	市町村類型	H30 II-3 R01 II-3 R02 II-3
実質収支	2,180,220千円	(年度毎)	R03 II-3 R04 II-3
標準財政規模	15,580,626千円		
地方債現在高	26,891,786千円		

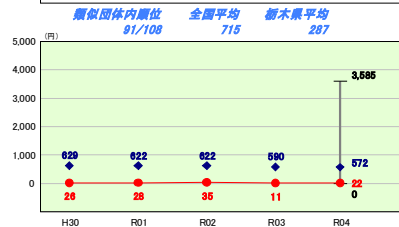
- 当該団体値
- ◆ 類似団体内平均値
- ┌ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

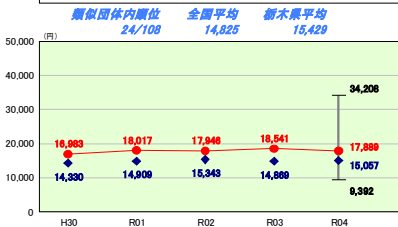
議会費



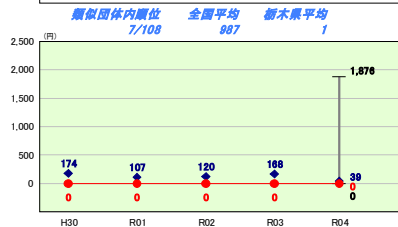
労働費



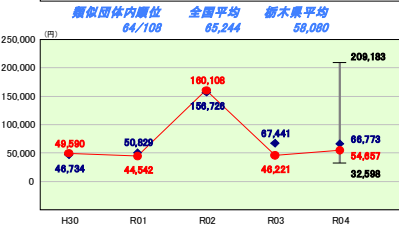
消防費



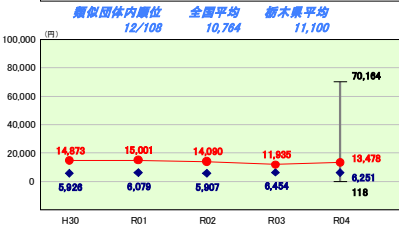
諸支出名



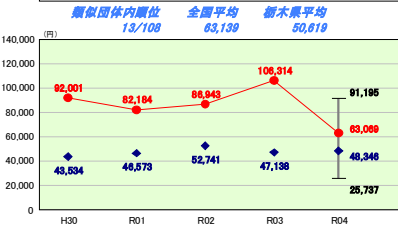
総務費



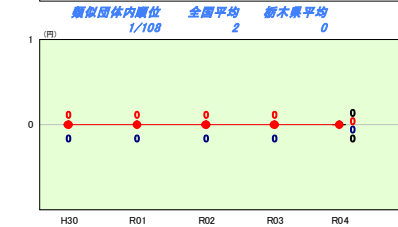
農林水産業費



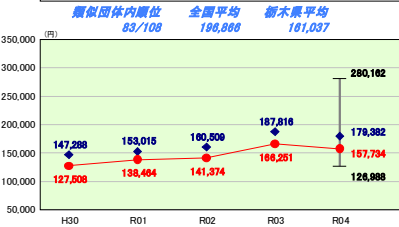
教育費



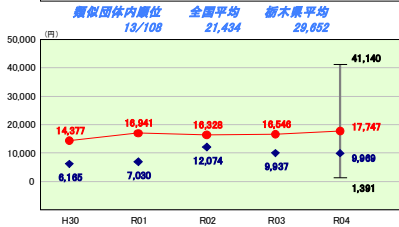
前年度繰上充用金



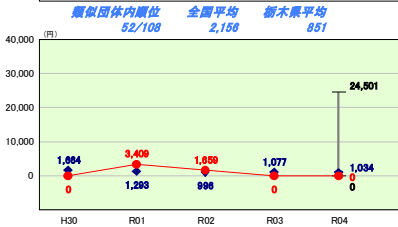
民生費



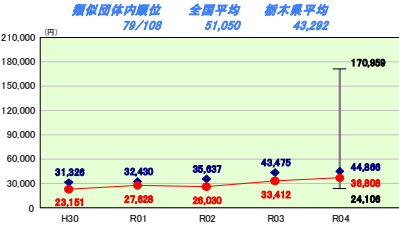
商工費



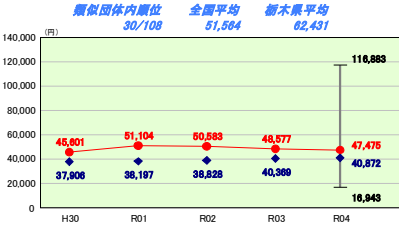
災害復旧費



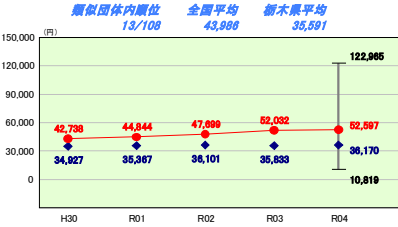
衛生費



土木費



公債費



目的別歳出の分析

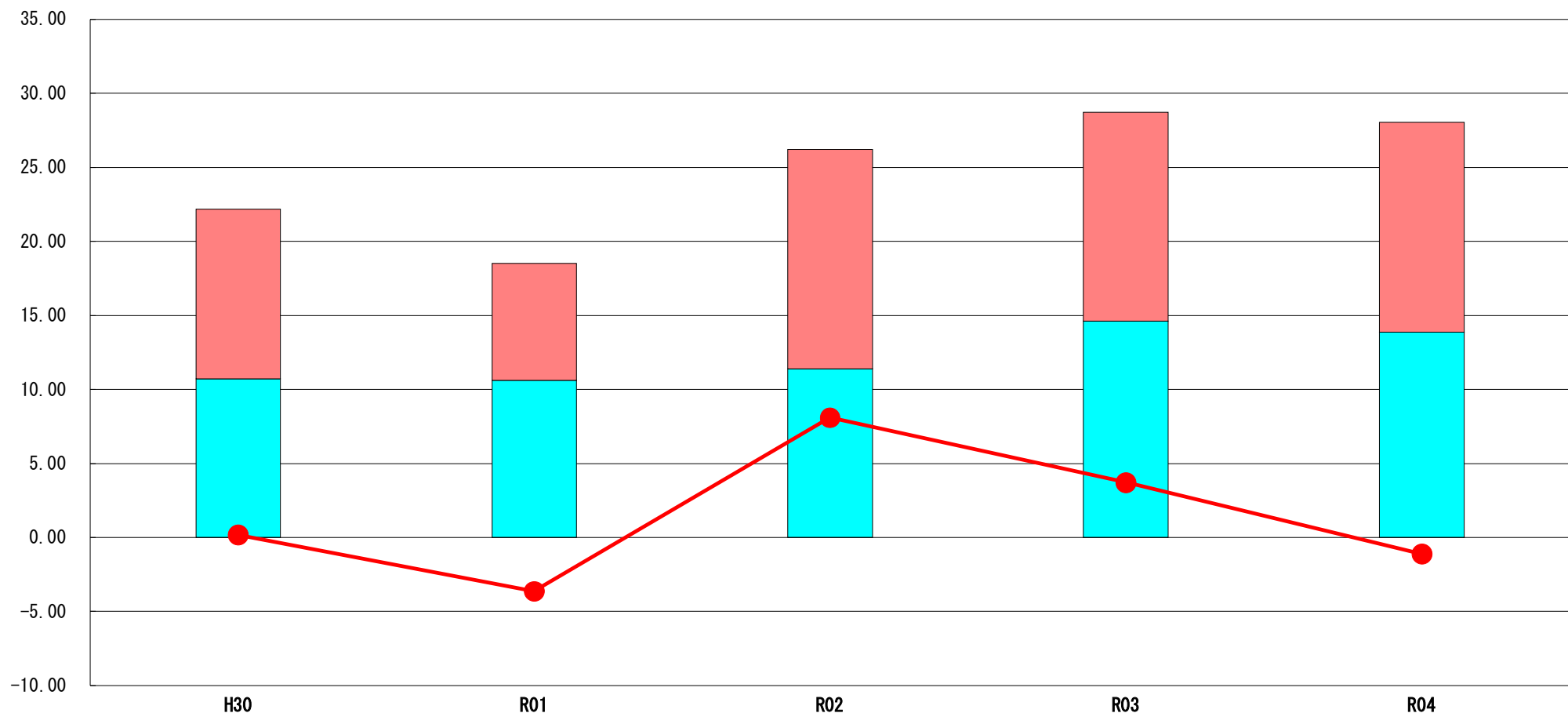
主な目的別歳出を見ると総務費は、財政調整基金等の積立金の減などにより、全国、県平均を下回っている。民生費は、医療費や生活保護費、子ども子育て支援の影響により年々増加傾向にあるが、全国、県平均を下回っている。衛生費は、ごみ処理業務における一部事務組合への負担金が減となり全国、県平均を下回っている。農林水産業費については、農業基盤整備などの普通建設事業費により全国、県平均を上回っている。商工費は、全国、県平均を下回っているが、産業団地整備推進事業が継続しているため、ここ数年は高い水準が続いている。土木費は、スマートIC整備事業に係る大型工事が順調に進捗していること等により前年度より減となり全国、県平均を下回っている。消防費は、消防施設の更新等の影響で、全国、県平均を上回っている。教育費は、義務教育学校整備事業の完了により大幅減となったものの、石橋複合施設整備事業などにより県、類似団体平均を上回っている。公債費は、義務教育施設の耐震補強や大規模改修事業、庁舎関連事業などで起債した合併特例事業に係る償還がピークを迎えており、全国、県平均を上回っている。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




令和4年度

栃木県下野市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H30	R01	R02	R03	R04
 財政調整基金残高		11.45	7.86	14.81	14.10	14.18
 実質収支額		10.73	10.63	11.39	14.61	13.86
 実質単年度収支		0.18	▲ 3.62	8.11	3.73	▲ 1.10

分析欄

財政調整基金の令和4年度残高は、前年度比20百万円減の2,210百万円となり、前年度同程度の残高を確保することができた。これに伴い財政調整基金残高に係る標準財政規模比も、前年度同程度の14.18%となり適正な水準を保つ結果となった。

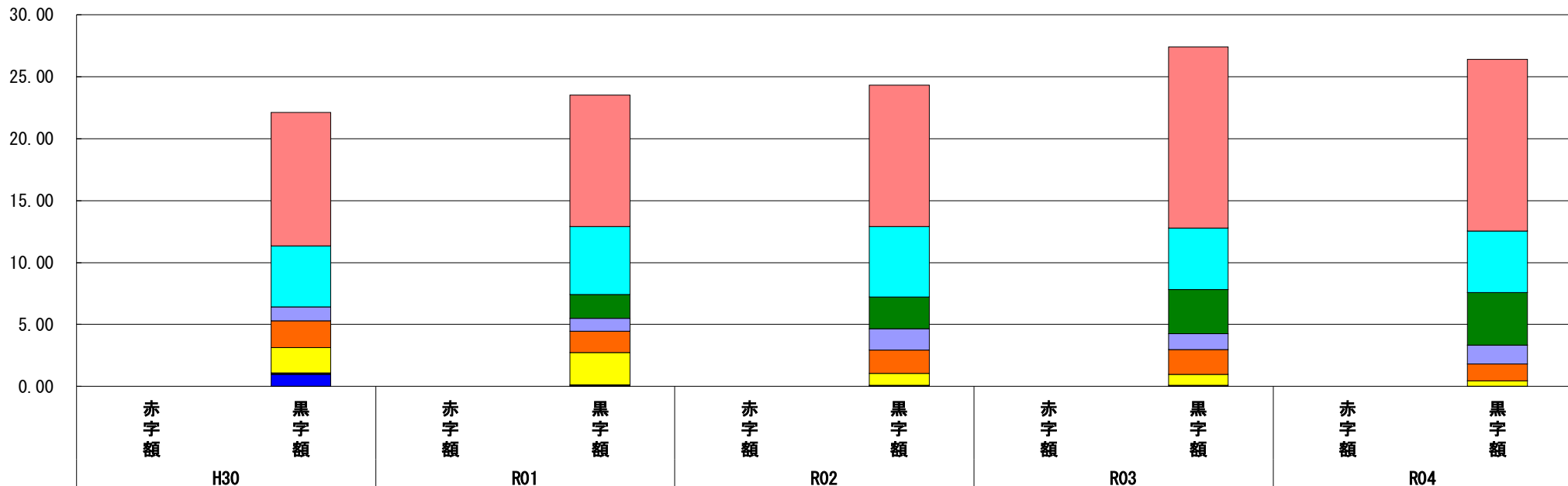
実質収支額も13.86%の黒字となったが、財政調整基金の残高が減少したことにより、実質単年度収支については前年度の3.73%から4.83ポイント減少し、▲1.10%となった。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和4年度

栃木県下野市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H30	R01	R02	R03	R04
一般会計		10.72	10.62	11.38	14.60	13.86
水道事業会計		4.95	5.48	5.70	4.98	4.97
下水道事業会計		-	1.92	2.57	3.55	4.25
介護保険特別会計		1.12	1.06	1.71	1.31	1.50
国民健康保険特別会計		2.14	1.70	1.88	2.01	1.36
小山栃木都市計画事業仁良川地区土地区画整理事業特別会計		2.09	2.62	0.94	0.86	0.43
小山栃木都市計画事業石橋駅周辺土地区画整理事業特別会計		0.06	0.07	0.06	0.06	0.02
後期高齢者医療特別会計		0.03	0.05	0.05	0.03	0.01
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.98	-	-	-	-

分析欄

連結実質赤字比率に係る各会計が健全財政運営に努めた結果、全ての会計が黒字となっている。

今後も更なる行財政改革を推進し、健全財政の維持に努める。

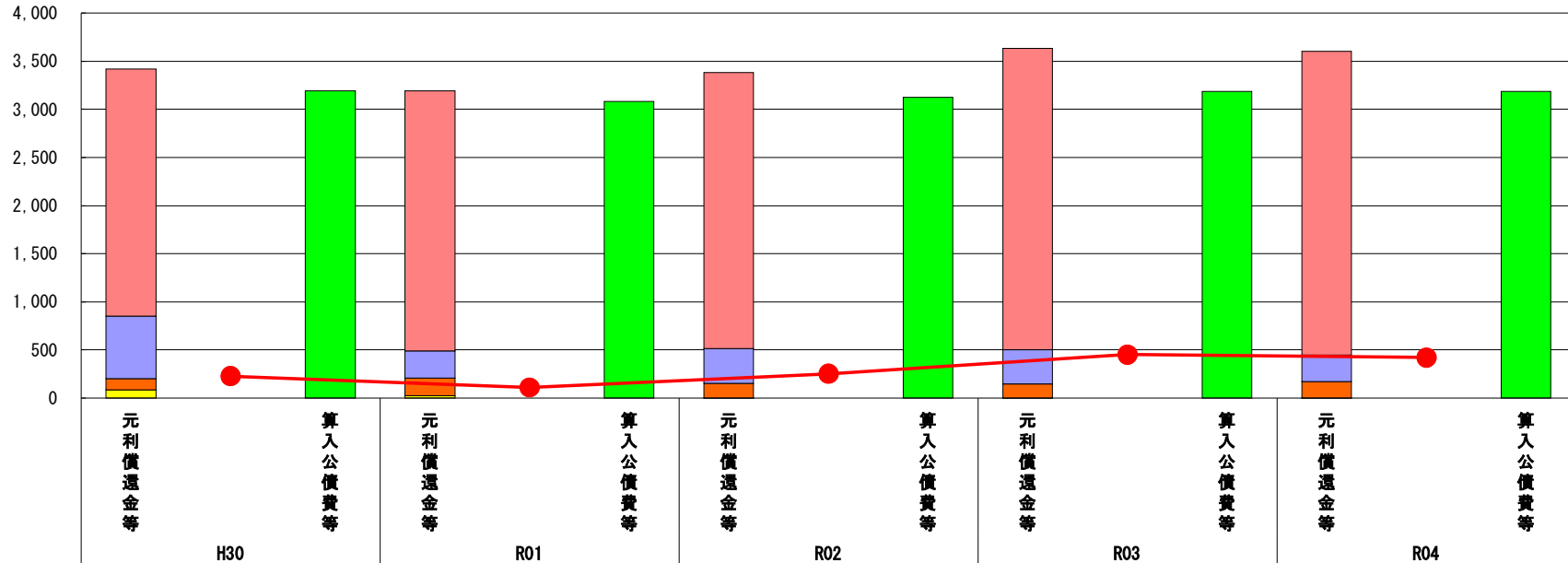
※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

栃木県下野市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
元利償還金等(A)	元利償還金		2,570	2,702	2,870	3,132	3,163
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		649	285	360	359	271
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		117	183	150	142	171
	債務負担行為に基づく支出額		84	23	2	2	2
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等(B)	算入公債費等		3,192	3,085	3,128	3,185	3,185
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		228	108	254	450	422

分析欄

義務教育施設の耐震補強や大規模改修事業、庁舎関連事業で起債した合併特例債の償還のため元利償還金が高い水準にある。
 一方、算入公債費等も合併特例事業債や臨時財政対策債の償還金増加にともない高い水準にある。
 今後も、義務教育学校整備など地方債を活用した事業の影響から、元利償還金の増加が見込まれるため、既発債の繰上償還の検討や事業の峻別を行うとともに、新規発行の抑制を図り、実質公債費比率の上昇を最小限に抑える。

※1 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※2 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D)/(E))

(参考)

(百万円)

減債基金積立状況等(注)		年度	H30	R01	R02	R03	R04
減債基金積立状況等(注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額(C)						
	前年度末減債基金残高(D)						
	前年度末減債基金積立相当額(E)						

分析欄

満期一括償還地方債を発行していないため、積み立てを行っていない。

(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。

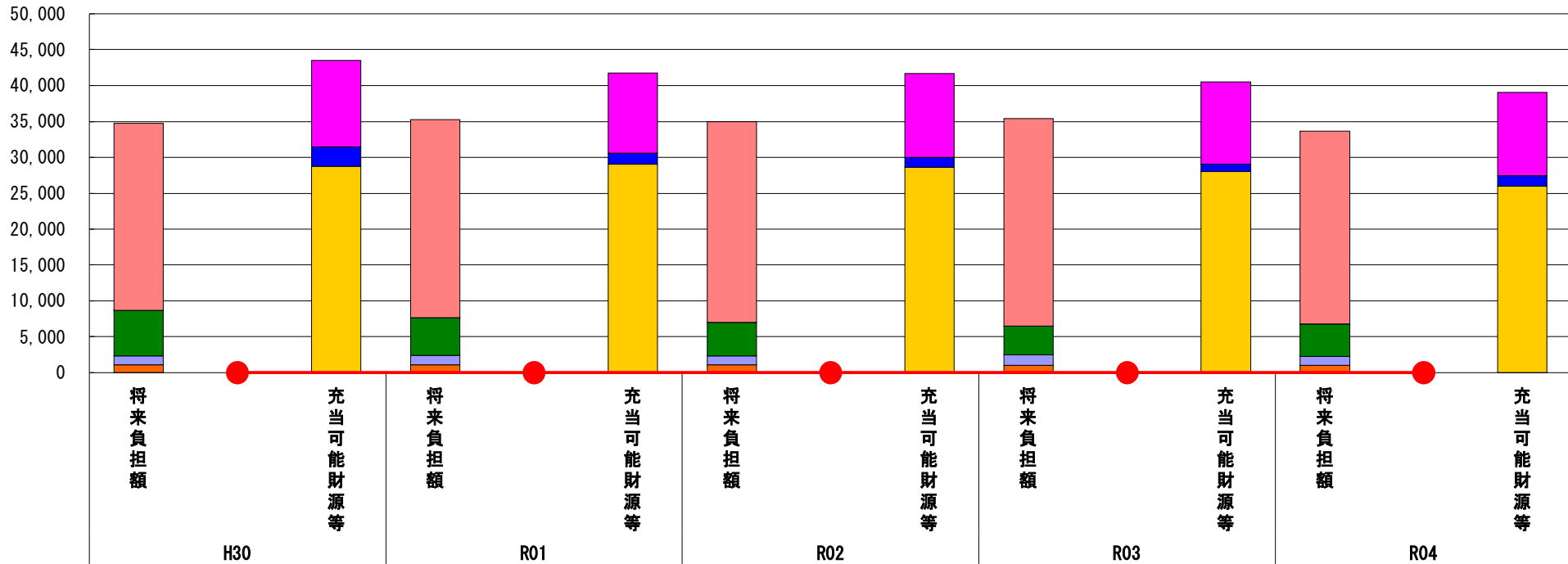
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

栃木県下野市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		25,999	27,593	28,008	28,896	26,892
	債務負担行為に基づく支出予定額		31	8	6	5	3
	公営企業債等繰入見込額		6,403	5,253	4,691	4,007	4,517
	組合等負担等見込額		1,209	1,342	1,224	1,435	1,235
	退職手当負担見込額		1,075	1,083	1,063	1,022	1,005
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能財源等 (B)	充当可能基金		12,045	11,162	11,697	11,455
充当可能特定歳入			2,724	1,541	1,410	1,060	1,515
基準財政需要額算入見込額			28,759	29,068	28,570	27,994	25,941
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 8,813	▲ 6,491	▲ 6,685	▲ 5,143	▲ 5,401

分析欄

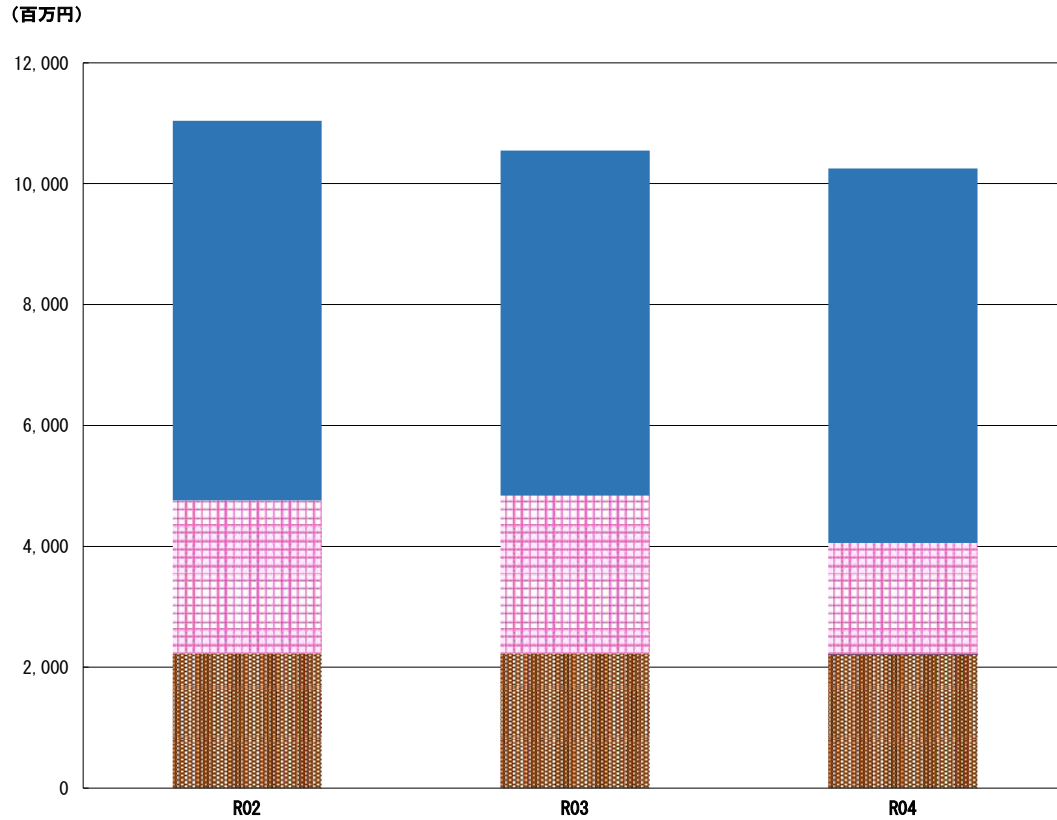
将来負担額については、義務教育施設の耐震補強や大規模改修、庁舎関連事業などに係る地方債の発行にともない一般会計の地方債残高は高い水準にある。

一方、充当可能財源等についても、財政調整基金などへの積立てにより高い水準を保っていることに加え、基準財政需要額算入見込額も合併特例事業債、臨時財政対策債等の活用により高い水準で推移しているため、将来負担比率はマイナスとなっている。

今後、義務教育学校整備やスマートIC整備等の社会資本総合整備に対する地方債活用に伴い、一般会計に係る地方債残高が増加し将来負担比率が上昇することが想定されるため、事業の峻別や充当可能基金の計画的な積立てと有効活用を図り、健全財政の維持に努める。

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



(百万円)

区分	年度	R02	R03	R04
財政調整基金		2,233	2,230	2,209
減債基金		2,525	2,610	1,848
その他特定目的基金		6,281	5,709	6,193
公共施設整備基金		2,472	2,057	2,773
地域振興基金		1,526	1,502	1,391
庁舎等整備基金		983	874	766
地域づくり事業推進基金		458	464	475
地域福祉基金		448	448	448
基金残高合計		11,039	10,549	10,250

令和4年度

栃木県下野市

基金全体

(増減理由)

公共施設整備基金は剰余金を重点的に積立て前年度比716百万円増となったが、減債基金は前年度から762百万円減となったほか、庁舎等整備基金が前年度比108百万円、地域振興基金が前年度比111百万円減となったことなどにより、基金全体では昨年度から299百万円減の10,250百万円となった。

(今後の方針)

財政調整基金は社会経済情勢の変化に伴う税收の急激な落ち込みや災害等の備えとして計画的に積み立てを行っていく。また、特定目的基金について設置目的を踏まえた積立金の有効活用を図る。特に公共施設整備基金については、計画的に積立ながら長寿命化対策やインフラ整備等への積極的な活用を図る。

財政調整基金

(増減理由)

財政調整基金は、4百万円の積立て、25百万円の取崩しを行ったが、残高に影響を与える程の大きな変動はなく、前年度比21百万円減の2,209百万円となり、前年度同額程度の残高を確保することができた。

(今後の方針)

社会経済情勢の変化に伴う税收の急激な落ち込みや災害等の備えとして計画的に積立てを行い、適正な財政運営を行うため、標準財政規模の10%の維持を図る。

減債基金

(増減理由)

減債基金は令和3年度において、剰余金を重点的に積立て前年度比85百万円増の2,610百万円となったが、令和4年度においては、義務教育施設の耐震補強や大規模改修事業、社会資本整備、庁舎関連事業で起債した合併特例事業債の償還に伴い前年度比762百万円減の1,848百万円となった。今後も公債費の増加に伴う行政サービス等に与える影響等を考慮しながら基金の有効活用を図っていく。

(今後の方針)

今後も義務教育施設の改修等に伴う地方債、社会資本整備に伴う地方債、総合管理計画に基づく集約・長寿命化・転用事業に係る地方債、及び臨時財政対策債などの償還が前年度同程度継続することが見込まれることから、市民サービスに影響を与えないよう償還財源を計画的に積立てて行く。

その他特定目的基金

(基金の使途)

公共施設整備基金：公共施設の整備促進を図るため活用
 地域振興基金：地域振興のための事業に活用
 庁舎等整備基金：庁舎等整備を図るため活用
 地域づくり事業推進基金：地域づくり事業に活用
 地域福祉基金：高齢者の保健福祉の増進等、地域福祉の向上に資する事業に活用

(増減理由)

公共施設整備基金は、インフラ整備等に643百万円繰入れしたが、剰余金を重点的に積立て新たに1,359百万円を積立て、前年度比716百万円増の2,773百万円となった。地域振興基金は、利子分3百万円を積立てたが、地域振興に係る事業に114百万円を繰入れしたため、前年度比111百万円減の1,391百万円となった。庁舎等整備基金は、利子分2百万円を積立てたが、整備に係る償還費に110百万円を繰入れしたため、前年度比108百万円減の766百万円となった。地域づくり事業推進基金は、8百万円を各事業に繰入れしたが、新たにふるさと納税等19百万円を積立てたため、前年度比11百万円増の475百万円となった。地域福祉基金は、利子分百万円を関係事業に繰入れたため、残高は前年度同額の448百万円となった。

(今後の方針)

公共施設整備基金については、計画的に積立てながら、公共施設整備、統廃合・更新・長寿命化対策等への積極的な活用を図る。また、その他の特定目的基金については、基金の設置目的に則した運用を行い、基金の有効活用を図る。